

市民たちの持続的な活動を支えて：日本におけるカール・ポランニーの受容と影響（訳）

中山智香子

世界の他の地域と同じく日本でもカール・ポランニーは21世紀に甦っている。世界に共通するその理由の一つは、主著『大転換』改訂版が2001年に刊行され、市場を基盤としたグローバル経済の根本的かつ構造的批判として読まれてきたこと、そしてもっと人間らしく社会性のある連帯的経済への変革が意識されてきたことである。日本では2009年に邦訳が刊行された。また日本では2011年、不況のさなかに東日本大震災の地震、津波、そして福島原子力発電所の事故という複合災害が生じ、多くの人びとが新自由主義的な経済中心的思考様式を再考することになった。それは1970年前後からの市民運動のうねりの再来であった。日本では1970年代頃から、ポランニーはマルクスとともに、社会性や持続的発展を求める活動的な市民たちにとっての範となる思想家であり続けてきたのだ。

ポランニーを1970年代に初めて日本に紹介したおもな立役者は玉野井芳郎(1918 - 1985)であったが、二人の慶応ボーイ（慶応大学出身者）、すなわち野口建彦(1941-2014)と栗本慎一郎(1941 -)も忘れてはならない。野口は貨幣、金融の理論や歴史に関心を持ち、かつて1975年、そして2009年にふたたび邦訳された『大転換』の主な訳者であった。しかし別の慶応ボーイで、スナック菓子の会社カルビーの創業社長であった野口の友人は、野口から話しを聞き、ポランニーの考え方を事業に適用して、地域を活性化させる「スマートテロワール」¹という概念を主張し、また「日本で一番美しい村」というNPO（非営利組織）も組織した。一方、ポランニーの経済人類学を現代哲学・現代思想との関わりから解釈した栗本のアプローチは学際的で華やかであり、次第に学問的世界からは離れていった。栗本のエッセイ『ブダペスト物語』は、ポランニーを取り巻く人びとにオマージュを捧げるインタビューを含み、広く読まれてきた。

東京大学の経済学者であった玉野井は、比較経済体制や経済学史、とりわけマルクス、メンガー、シュンペーターやドイツ歴史学派に照準した広範な研究の後、ポランニーを見出すことになった。玉野井はポランニーの代表的論考を翻訳した日本語独自の書物を1975年に編集し、その後ポランニーの思想を継承しつつイヴァン・イリイチと協働しながら、地域主義、「エコノミーとエコロジー」、「生命系のエコノミー」など独自の思想を精力的に展開した。また玉野井は反核、沖縄の基地反対、平和運動一般などに関して積極的に意見を表明してきた。そのような立場は、当時日本で興隆していた内発的発展の理論や実践に従事する人びとにも共有されていたものであった。内発的発展は、外発的つまり大規模で政府主導の開発に対置して概念化されたもので、したがってコミュニティをベースとした参加者志向の

¹ テロワールとは、たとえば地方のワインの味わいのように、その土地に独自の性質を強調するフランス語であり、スマートという形容詞は、日本の地方の農村で従来およそ無視されてきた女性たちの声を聞くことを示している（松尾雅彦『スマートテロワール：農村消滅論からの大転換』学芸出版社、2014年）。

開発を求めた。この意味で、近年議論されている持続可能な（サステイナブルな）発展の先駆といえるだろう。

1980年代以降、そうした傾向はどちらかといえば衰退し、日本ではポランニーは忘れられていったが、直接的あるいは間接的な弟子たちが彼の考え方を信奉し続けた。なおもポランニーを読んで研究を続ける者もあれば、協同組合、地域通貨、小規模エネルギーなどさまざまな代替的経済の実践に取り組み続ける者もいた。その後1995年1月に神戸がひどい地震（阪神淡路大震災）に襲われたことが、日本社会の一つの転機となった。神戸のために自発的にボランティア活動を行う人びとがあらわれてきたのである。長い間社会的経済を追究してきた藤井敦史（1967 -）は、神戸におけるコミュニティビジネスを研究することから出発したが、次第に理論的なバックボーンを求めるようになって、後にポランニーを発見したと述べている。そうこうするうちに、若森みどり（1973 -）やもっと若手の研究者たちがポランニーをあらためて情熱的に紹介するようになり、その考え方にアクセスすることは、今ではかつてよりずっと容易になった。

わたしはたまたま2019年に、アジア太平洋資料センター（PARC）というNPO（非営利組織）の理事に加わったのだが、PARCは市民活動と市民教育のために1973年に設立され、多様な人びとが集まって議論を行ってきた組織である。この場所が、私たちの時代、そして将来に向けてポランニーの精神を継承する出会いの場の一つになることを願っている。